

大政奉還建白書

誠に恐れ多くも謹んで建言申し上げます。

天下の世を憂うる士は口を閉ざし、敢えて言葉を控えておりますが、世は誠に恐るべき時を迎えております。

朝廷、幕府、公卿、諸侯の胸中はそれぞれ異なり、これは誠に恐るべきことであります。もともと危惧されることは徳川家の大患であり、国家の大幸であります。

このような事態に陥った責任は誰に帰すべきか。しかし過去の是非曲直をあれこれ論じても益はありません。

ただ願わくは大活眼、大英断をもって、天下の万民と共に一心協力し、公明正大な道理に帰り、万世に恥じず、万国に劣ることのない大根底を打ち建てることです。

この趣旨は前月上京の時にも建言申しあげる所存でしたが、何分迷惑に感ずる筋もあり、また旧病が再発いたし、帰国した次第であります。

以来起居動作共にままならず、再度の上京も出来ず、まことに残念ながら、ひたすらこのことを日夜焦心苦慮しております。

よって私の考えを一二、家来どもによって申し上げさせます。

ただ幾重にも公明正大の理に基き、天下の万人とともに、皇国数百年の国体を一変し、至誠をもって万国に接し、王政復古の業を建てる一大機会を与えていただきたい。

なお別紙をとくと細覧下されたく、懇々の至情もだしがたく、泣血流涕の至りであります。

慶応三年九月

松平容堂

天下の形勢は古今の得失を一挙に失い、誠に恐れながら首を垂れ再拝するところがあります。

伏して思うに皇国の興復の基業を建てるためには、国体を一定し、政度を一新し、万世に恥じない王政復古を本旨とすべきであります。

奸を除き良を挙げ、寛恕の政を施行し、朝廷幕府諸侯すべてこの大基本に従うことが当面の急務と存じます。

前月四藩の者が上京し、一二献言致しましたが、容堂は病気で帰国し、以来なお篤く熟考したところ、世は実に容易ならない事態であり、安危の決は今日にありと考えてお

ります。

早速上京のうえ右の次第を及ばずながら建言するよう申し上げたところ、症状は難渋し、やむを得ず微賤の私どもが、愚考を恐れながら言上する次第であります。

- 一 天下の大政を議定する全権者は朝廷にある。我が皇国の制度および法律など一切は、必ず首都の議政所より出さねばならない。
- 一 議政所は上下に分け、議員は、上は公卿から下は官吏、庶民まで、正明純良の士を選ぶ。
- 一 都会に長幼に応じた学校を設け、学術、技芸を教育する。
- 一 外国とのすべての条約は、兵庫において朝廷の大臣と外国代表とが交渉し、道理の明確な新条約を結び、誠実に貿易を行い、外国に信義を失わないようにする。
- 一 海陸の軍備を大至急備えなければならない。軍局を京阪の間に置き、朝廷を守護する親兵とする。世界に比類のない兵隊を養成する。
- 一 中古以来政治と刑罰の権は部門が握ってきた。しかし外国船が来航して以来、天下は紛糾し、国家は多難となり、政権はゆらいでいる。これは自然の勢いであり、このような情勢となれば、古来の旧弊を改新し、枝葉にこだわらず、小条理に留まらず大根柢を立てなければならない。
- 一 朝廷の制度、法則は昔の律令が今もあるが、今日の時世に合わないものもある。よろしくその弊風を除き、一新改革し、地球上に独立する国本を立てるべきである。
- 一 議事を担当する士大夫は私心を去り、公平に基き、術策を設けず、正直を旨とし、既往の是非を問わず、一新して今後のことを見るべし。言論多くして実効少ない通弊を打破すべきである。

上記の項目は恐れながら当今の急務であります。内外の全般にわたり、これを捨てて他に求めるものはないと信じます。職に当るものは成敗、利鈍を顧みず、一心協力し、万世にわたり貫徹するようになりたい。従来 of 事件を取り上げ、難弁抗論し、朝廷、幕府、諸侯が互いに争うことは絶対に避けなければならない。

以上は容堂の志であります。愚昧、不才の身を顧みず大意を建言いたしました。ついては恐れながら、これらを空しくお聞き捨てになれば、天下のために残念であります。なおまたこの上寛仁にも了解いただけるとすれば、微賤の私どもにも、何かと親しく申しつけられたく懇願申しあげます。

慶應三年九月

松平土佐守内

寺村 左膳

後藤 象次郎

福岡 藤次

神山 左多衛